

誕生の喜び 「母の日記」

田越 真紀子

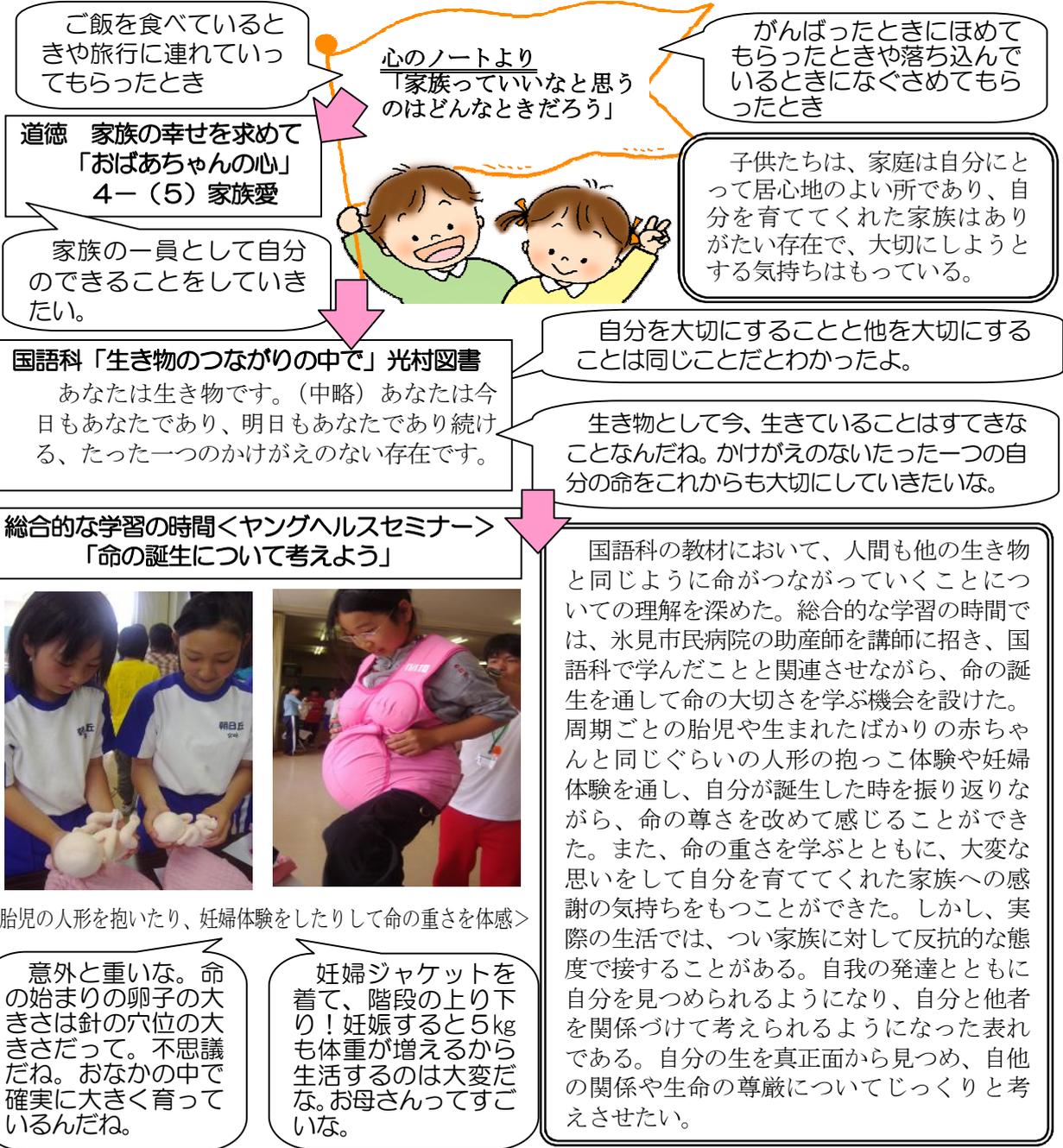
1 かけがえのない命！ 生まれてきた喜びを実感させたい

私たちはたった一度の人生をよりよく生きようとする。また、社会的存在として生きているのだから、自分の生命だけではなく、他者の生命も尊重しなければならない。だれもがかけがえのない生命をもち、一度限りの人生を精一杯生きていくとはどのようなことかを考えさせる第一歩としたい。

自分の誕生が家族にとって喜びであったことを実感し、資料の主人公に共感することにより主題に迫った。そして、友達にも同じようかけがえのない命があることに改めて気づくことで、自分を大切にしたり、相手を大切にしたりする心情を育てたいと考えた。

2 主な学習の流れと子供たちの命についての意識の変化

(1) 教科、総合的な学習の時間との関連を図った単元構想



(2) 誕生の喜びが実感できる授業過程の工夫

① 価値に迫るための主な発問と子供の意識

○ お父さんに日記を読むように言われたとき「ぼく」はどう思ったか。

T児 いやな感じ面倒くさい。
M児 何でお母さんの日記を読まなきゃならないのかな。
I児 どんな事が書いてあるのかな。

○ 無事におなかの赤ちゃんを産むために入院していた母の様子を知った「ぼく」はどんなことを考えていただろう。

R児 僕を一生懸命に産みたいために努力してくれていたんだ。
N児 お母さんはつらい思いをしていたんだ。その事がわかってうれしい。
I児 お腹の中で起こる小さな事でも自分を思ってくれていることがうれしいな。

◎ 涙が止まらないくらい、「ぼく」の誕生を喜ぶ母の様子を知ったとき、どんなことを思っただろう。

Y児 ぼくの事をこんなに大切に思ってくれているのに文句ばかり言っている。謝りたいな。
K児 産まれたときに涙を流してくれるほど喜んでくれてうれしいな。
H児 かけがえのない命。ぼくを産んでくれてありがとう。

☆本時の資料のあらすじ☆

出典 日本標準 みんなで考える道徳6年より

「ぼく」は、親にさからってばかりいる。ある日、父から母の日記を読むように言われる。母の日記には「ぼく」の生まれたときのことが綴られていた。親に反抗してばかりいた「ぼく」は、この日記をよんでギクリとするのである。

子供たちは疑問やいら立ちを表す発言をした。これは「ぼく」に共感し普段、自分が家族に対する行動と重ね合わせている表れと考える。

母への思いに対する変化が見られる発言があった。子供たちは自然と日記の世界に入り、お腹の赤ちゃんを心配し、出産間際の母の不安な気持ちが分かり、命の誕生の重みと命を守る親の愛を感じていた。

涙を流してまで自分の誕生を喜んだ母の様子を知り、家族へ謝罪と自己反省と共に自分の命が誕生した喜びを理解し、家族への感謝の気持ちへと意識が高まった。



<「母の日記」の内容をカードで提示>



<「ぼく」の気持ちに共感するI児>

② 誕生の喜びを実感した家族からの手紙

K児の母からの手紙より

Kちゃんが生まれた時、家族みんなが大喜びでした。特にお姉ちゃんは「私の妹が生まれた」とすごくうれしそうでした。小さい頃、お姉ちゃんが叱られていたら、「お姉ちゃん、かわいそう」とよく泣きましたね。そんな優しいKちゃんにお母さんも教えられたことがたくさんあったよ。(中略) Kちゃんの頑張る姿が家族みんなの励みでもあり、元気のもとでもあるよ。これからもKちゃんの明るさと優しさでみんなを元気にしてね。

K児の振り返りカードより

今日、お母さんからの手紙を読んで、私が生まれた時、家族みんなが喜んでくれたことを知り、とてもうれしかったです。家族に感謝して、自分の命を大切にしていきたいです。



<家族からの手紙をうれしそうに読む子供たち>

授業の終末に家族からの手紙を読む場を設定した。初めて家族から手紙をもらった子供が多く、誕生したときの家族の喜びと気持ちや願いを知り、大変うれしそうであった。子供たちは家族の愛情を素直に受け入れ、愛されて育ってきたことを実感し、自己肯定感を得ることができた。また、そのことで、自分だけでなく友達も自分と同じように愛されて育ってきたことを理解し、友達を思いやり、互いに尊重し合って過ごしていこうとする気持ちをもつことができた。

3 命の尊さを日常生活に意識できるように

道徳と教科、学活、総合的な学習の時間を関連させ総合単元的に授業を構想するのは道徳的価値を高めるのに効果的である。そのために道徳的価値を普段の様々な体験活動で意識できるように支援を工夫することが大切である。また、道徳の授業の中で一般化がスムーズになるような発問と場の構成を吟味する必要がある。

今後、子供の育ちを理解し、何をねらいとし、どんな発問でどのように一人一人の考えをかかわらせるのかを考えて授業を組み立てていきたい。